

経過の概要

林 喬 義

The Brief Progress Report

Takayoshi T. A. HAYASHI

Department of Microbiology

Progress during the period of 4 months from the beginning of January, 1981, when the first patient suspicious of KHF was hospitalized, till the end of April, 1981, when the Animal Experiment Center in our college was wholly reopened, was described in the style of diary.

1981年

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 1月2日 | 本学中央実験動物室飼育員 M. H. 発熱, 悪寒. | | |
| 5日 | 附属病院第3内科に入院, 鈴木教授診察の結果, 流行性出血熱(韓国型出血熱)の疑ありとされる. | | |
| 9日 | 念のため中央実験動物室勤務の職員全員の採血を行なう.(第1回)(飼育員 N. K. 欠勤採血できず)微生物学講座で血清分離, 凍結保存. | 2月6日 | 「本学における韓国型出血熱患者の発生とそれに対する対策」を以て本件の発生を関連機関に通知. |
| 16日 | 同上(第2回)(同一職員1名欠勤採血できず)血清分離, 凍結保存. | 7日 | 薬理学講座研究生(薬剤師) M. K. 発熱附属病院第3内科に入院, 本症の疑ありとされた. |
| 17日 | 同上血清を阪大微研川俣教授宛に送付. | 同日 | 本学内の飼育ラット全部の殺処分, 焼却を決定, 各飼育群に分けて採血, 血清分離(疫学調査資料)殺処分, 採血は浦沢教授, 永井室長, 遠藤獣医師が担当し, 血清分離保存は浦沢教授, 前川助教授が担当した. |
| 26日 | 文部省人獣共通感染症研究班のアンケート調査に記載された内容から疑わしい研究者数名を抜きだし採血, 血清分離, 凍結保存. | | ラット以外の齧歯類の一部を殺処分, 残りは隔離飼育に決定. |
| 30日 | 同上血清を阪大微研に送付. | 12日 | 阪大微研山之内教授(実験動物施設長)来札. |
| 2月3日 | さきに微研に送付した血清中のKHFV抗体を韓国高麗大学医学校ウイルス研究所李教授のもとで検査の結果, 飼育員 M. H., H. I. の2名は抗体陽性であることを微研川俣教授が李教授から電話連絡を受けた. | 13日 | 阪大微研川俣教授(人獣共通感染症文部省研究班長)来札. 本学学内講演会実施. |
| 4日 | 実験動物研究会(大阪)に出席していた本学共研部長林教授が川俣教授から会場で口頭でその報告を受け, 直ちに和田学長に電話で連絡した. | 同日 | 中央実験動物室職員全員採血(第3回)血清分離, 凍結保存. |
| 同日 | これに基づき, 急ぎKHF対策委員会を学 | 14日 | ラット殺処分完了. |
| | | 同日 | 今後2ヵ月間齧歯類実験動物の購入, 移 |

- 動ならびに繁殖の禁止.
- 16日 「本学における韓国型出血熱患者の発生とそれに対する対策」を以て再度本件の発生とその後の具体的措置ならびに注意事項について学内全般に通知.
- 23日 高麗大学李教授より血清抗体検査報告書受理（微研川俣教授経由）
- 25日 中央実験動物室飼育員 M. H. 死亡. 病理解剖実施.
- 3月24日 文部省に於て人獣共通感染症に関する会議, KHF 対策委員会委員長林教授出席.
- 27日 中央実験動物室長 H. N. 発熱. 全身倦怠感入院, 本症の疑いをもたれ検査.
- 4月14日 齧歯類の実験再開準備.
- 20日 殺処分ラットの血清抗体検査成績を李教授より受理（微研山之内教授経由）病原体の感染経路の検討（浦沢教授, 永井室長担当）
- 30日 ラット以外の齧歯類の実験再開通知.